

ファルコン電子(株)
代表取締役社長

木下 浩彰 氏

ファルコン電子(株) (横
浜市港南区) は、台湾H
I—LO社の国内総代理
店権を持つカンパニーで
あり、デバイスプログラ
ムで国内トップシェア狙
っていく構えだ。取り扱
い装置はバラエティーに
富んでおり、テープ用外
観検査装置、レーザー捺
印装置、自動プログラミ
ングシステム、3次元外



書き込みサー
ビスを最大の
武器にしてい
るといふ。今
回は同社を設
立し、陣頭指
揮を執る代表
取締役社長の

台湾HI—LOの総代理店で活躍

書き込みサービスが最大の武器

木下浩彰氏に伺った。

—お生まれ、育ちに
ついて。

木下 代々が海の民で
あり、父はマグロ船の機
関長などを務め、木下船
舶工業を立ち上げた。私
は父の跡を継がずに駒澤
大学岩見沢教養部に入
り、米オレゴン州のポー
ランド州立大学に留学

ついては。

木下 米国で会社を立
ち上げるといふ発想があ
り、MBAを取得した。
機会があって台湾カンパ
ニーの素晴らしさを知
り、HI—LO社の国内
総代理権を持つというか
たちで創業を決意する。
横浜開港150周年とな
る2009年6月2日に

ている。国内アミューズ

業界専用プログラマ、3
次元外観検査装置、高速
ギャングプログラマなど
のニーズを取り込んだの
装置を開発し、台北製造
工場で作成し、私たちが
が日本国内販売を担当
し、サポートするという
関係になっている。HI
—LO社に対しては、先

っている。UFS(ユニ

バーサル・フラッシュ・
ストレージ)の書き込み
については、1.5×1
・5mmまでの小型のIC
に対応し、HI—LO製
の3次元計測ソフトを搭
載したオール・イン・ワ
ン装置(書き込み、3次
元外観装置、シリアライ
ズされたレーザー捺印)

ることだ。またファルコ

ン電子は、デバイスプロ
グラムで国内トップシェ
アを狙っていききたい。そ
して、売り上げ10億円以
上を達成していくことを
目標に掲げている。

ここに日本のチャンスが

あるとみている。また、
ロボットやFA、そして
半導体製造装置など機械
産業については、やはり
世界の先を行っている。
日本の半導体商社もスト
ロングな体質を持っている。
個人の見解でいえる、
私は「日本悲観論」を全
く取っていない。

—部下に対しての示

唆は。
木下 会社設立以来の
基本方針は、自由度の高
い社風にしたというこ
とだ。それゆえに、スタ
ッフには「自分の好きな
ことをやれ!」「個性を
伸ばせ!」と常に言っ
ている。またメタバース、
半導体、IoTなどの情
勢について常に目を配っ
て仕事をしてほしいと切
に思っている。

(聞き手・特別編集委員
泉谷渉)

し、アマゾン
ジャパンの社
長であったジ
ェフ・ハヤシタ氏、キト
ーの社長の鬼頭芳雄氏ら
と知り合った。大学を出
てからは、武藤工業、ミ
マキエンジニアリング、
ミナトエレクトロニクス
などで海外営業の仕事に
携わった。

会社を設立した。ファル
コンとは単のことであ
り、南方の勇敢な人を意
味する言葉でもある。
—HI—LO社の製
品については。

木下 とにかくお客様
のカスタマイズに合わせ
込む装置をたくさん持っ
ている。国内アミューズ
業界専用プログラマ、3
次元外観検査装置、高速
ギャングプログラマなど
のニーズを取り込んだの
装置を開発し、台北製造
工場で作成し、私たちが
が日本国内販売を担当
し、サポートするという
関係になっている。HI
—LO社に対しては、先

端技術の紹介、仕様やプ
ロセスのアドバイスを行
い、さらには世界市場の
動向・分析についても提
言している。

—書き込み高速対応
については。

木下 HI—LOグル
ープを世界一のデバイス
プログラマベンダーにす
ることは、今全く見る影もない。
それでも自動車の世界で
日本企業は世界のトップ
シェアを持つっており、次
世代エコカー、自動走行
運転、コネクテッドカー
などの技術進化により、
車載半導体市場は現在の
5〜6倍になるだろう。